

坑道内の様子



水替え作業

坑道にわいた地下水を水上輪(すいしょうりん)を使ってくみあげています。

絵巻「佐渡の国金堀之巻」(佐渡市教育委員会所蔵)



鉱石を掘る

相川金銀山の岩はとても硬く、一日で、数センチしか掘れませんでした。



鉱石を運ぶ

「ほりこ」と呼ばれる人たちが鉱石を背中にかつぎ、外へ運んでいました。

道遊の割戸



国指定史跡

佐渡金銀山のシンボル。人の手で掘り進めた結果、深さ74m、幅30mにもなり山を2つに割ったような姿になりました。佐渡ではもっとも大きな露頭掘りの跡です。

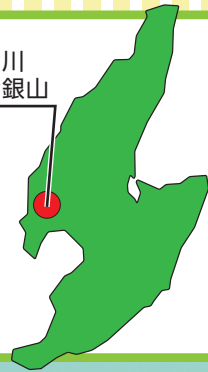
江戸時代

Aikawa

相川金銀山

400年以上つづいた日本最大の鉱山

相川金銀山



相川金銀山は、江戸時代に入て本格的な開発が始まりました。大量に生産された金や銀は、国のお金として利用され、幕府の財政を支えました。また、採掘(鉱石を掘り出す)から小判製造までが同じ場所で行われていた鉱山は、国内でも佐渡だけであり、その工程を鮮やかに描いた鉱山絵巻が100点以上も残っています。

鉱石から金ができるまで

鶴子と一緒に工程!!



5 塩を使って金と銀を分離させる!!

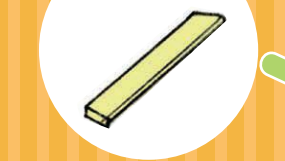


「金」と「銀」の「合金」ができる。

さらに! 相川では金をとりだすために

佐渡小判ができるまで

溶かしてのべ板状にする



小判1枚の重さにおもに切り分ける



佐渡小判には(佐)の極印が打たれている!

表面に薬品を塗って熱を加える(色揚げ)



小判は奉行所の隣にあった「小判所」でつくられていました。

注釈

※このイラストは、当時の金銀採取の方法を表すイメージ図であり、実際の地形とは異なります。



ジェームスのココがポイント!!

相川では金銀を得るため、当時の最先端技術を取り入れたんだ。たくさんの金銀がとれて町はとてにぎわっていたと言われているよ。

当時の相川上町の様子!



「天保年間相川十三ヶ月」より(新潟県立佐渡高等学校同窓会舟崎文庫所蔵)

相川金銀山発見前は小さな数十軒の村

発見後約5万人!!

国指定史跡

時を知らせるための鐘。

佐渡奉行所跡(復元)



佐渡を治めた奉行が支配を行なった場所です。江戸の中頃からは、敷地の中に「寄勝場」という工場を設け、金や銀をとり出す作業を1ヶ所に集めて仕事の効率化をはかりました。

寄勝場跡(復元)の様子



寄勝場に復元された建物では、当時の工場での様子を知ることができます。

今も相川には鉱山に関わる人々の職業名のついた町名が残っているんだね。「大工町」「大床屋町」とか...

最初は鉱山の近くにあった集落がやがて奉行所のある海側へ町がうつっていったよ。